

発 達 6 (239~246)

座長 野村庄吾・飯島婦佐子

239 インドネシアの子どもの認知発達Ⅰ

——図形模写について——

240 インドネシアの子どもの認知発達Ⅱ

——図形再認と図形の類同判断——

京都家政短期大学 ①清 水 佐保子

滋賀大学 ②千 原 孝 司

京都教育大学 野 村 庄 吾

京都教育大学 岡 本 夏 木

241 インドネシアの子どもの認知発達Ⅲ

——描画検査の内容分析——

京都教育大学 ○矢 野 喜 夫

追手門学院大学 落 合 正 行

242 インドネシアの子どもの認知発達Ⅳ その基本調査

——ジャワの子らの子守り行動 (MOMONG) ——

京都教育大学 ○野 村 庄 吾

〃 岡 本 夏 木

243 新生児の行動の発生的機序(1)

244 新生児の行動の発生的機序(2)

——生後 72 時間内の慣化現象および共鳴動作につ
いて——

京都教育大学 ①水 谷 宗 行

京都大学 ②金 子 伸 子

京都教育大学 鈴 木 葉 子

京都教育大学 後 藤 美佐子

〃 野 村 庄 吾

〃 岡 本 夏 木

245 (発表取消)

246 幼児の探索行動における新奇情報の効果

明星大学 飯 島 婦佐子

概要：本室での発表のうち、239~242 は、科学研究費による海外調査インドネシアにおける子どもの認知発達調査の報告が前半を占める。それに京都グループによる新生児の行動を実験観察した結果の報告と、飯島の幼児の探索行動の研究を加えたものであり、内容としてはバラツキの大きいものであったが、全体に討論はかなりつつこんでおこなわれたように思われる。なお、東学大グループ（口頭発表 甲斐）の発表は取り消されている。

インドネシアにおける認知発達：まず前半 4 つの共同研究に関し飯島から 1、インドネシアを研究地に選んだ理由、2、テーマを図形と子守り行動に選んだ理由につ

いて質問があったが、これに対し、野村（京教大）から、「今までの比較文化研究は、欧米とのものが多く、アジアは少なかった。インドネシアはアジア的であり、回教国であり、インドの影響も大きく、固有の高い文化をもっている。この研究は他にも連想の発達や遊びなど、認知発達の基礎的問題を知り、インドネシアの教育にも役立てたいと思っている。子守りについては、子守りする側とされる側の双方の認知発達にどんな影響を与えているのか知りたい」との答えがあり、矢野（京教大）から研究の目的意義がさらに明らかにされ、1、子どもの連想の基準データの作成、2、インドネシアの二言語使用にも興味があり、3、比較文化的研究としては、認知発達のちがいが内容的なものか、構造にまでおよぶのか、といった基本的問題を明確にしたいとの答えがあった。

また、図形認知を選んだことについて、清水（京都家政大）が、1、ことばの違いを越えてできる、2、知覚の枠組は同じか、同じプロセスで発達するのかという問題意識があると答えた。また、岡本（京教大）はアジアで長い伝統と安定した文化社会を形成しているジャワ文化の中心を選んだこと、最近の発達研究のとりあげている概念や方法に対する不満が述べられ、生態的実証的方法の必要が強調された。

新生児のハビチュエーションとコアクション：243, 244, に関しては、今までの新生児研究と違う点について、水谷から、模倣が発生の初期にすでに組み込まれているらしいこと、新生児が視覚的にすぐれた能力がそなわっていて選択反応が可能になっていることが本実験で推測されることを強調し、また、近視が今までの反射の概念で説明出来ない点をあげた。共同研究者の鈴木から、早期の乳児でも環境の中から何かをとり上げる、つまり、刺激の選択能力のあることが強調された。山口（京大）から出された模倣と共鳴動作の違いについて金子との間に論議がなされた。

幼児の探索行動と新奇情報：最後の 245 に関し、矢野から、1、不確定性の概念規定について、情報理論で数量的に記述できるものか、2、複雑さの中に新奇性を含めているのは何故か、3、新奇性は、主体が初めて見たという操作的規定にするのなら対象のもつ属性とはいえないのではないかの点で質問があり、飯島から不確定性の定義は、ものと個体の認知的水準との相対的關係であり、新奇性、複雑性の上位概念としてこの場合用いているとの答えがあった。（飯島婦佐子、野村庄吾）